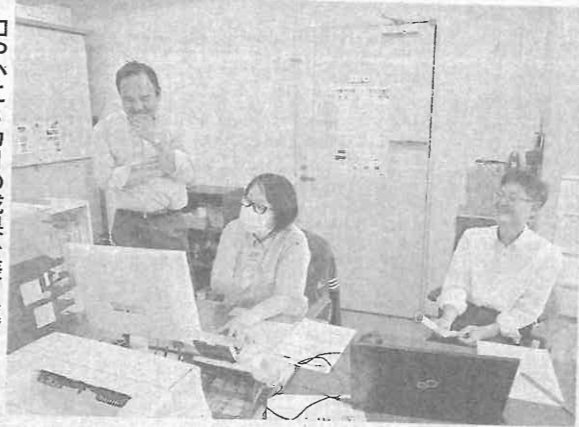


介護事業所 デジタル化

NTT東日本神奈川事業部(横浜市中区)が中小企業支援のため社員を期間限定で派遣するパラレルワークが、成果を上げている。横須賀市によるマッチングの第2弾として、高齢者介護事業を行う社会福祉法人興寿会(同市)のデジタル化を伴走支援。1日ばかりだった作業をわずか1時間程度に短縮できたものもあり、「捻出できた時間は利用者のためのサービス向上につなげたい」と興寿会のメンバーは話している。

(西郷 公子)



和やかに3カ月の成果を振り返るメンバーら
横須賀市の興寿会事務室

NTT東 横須賀で人材支援

横須賀市の「新たな人材活用による中小企業支援モデル」の枠組みで、同市と県庁外の人材活用センターが市内事業者の依頼を受けてマッチングを図る。第1弾では、子ども向けプログラミング教室などを開く企業を支援した。

■パラレル

「デジタルトランスフォーメーション(DX)の課題は認識していても、現場のマンパワーだけではいかんともしがたい面があった」と興寿会の坪内優子事務長(56)。市の仲介という安心感もあって手を挙げたという。

一方、NTT側は市との包括提携に基づき①地域企業の困りごとを把握し、次のビジネスにつなげる②社員の視野を広げ現場を知ってもらう③とで人材育成を促し、会社の成長にもつなげる一環を担う。依頼に対し社内公募をかけ、

応募した社員がいれば本来業務の傍ら、研修として週1回、3カ月限定で派遣して働く。二つ以上の仕事に並行して携わるパラレルワークだ。

1月中旬に派遣された小島毅洋さん(46)と小島一男さん(56)は、2人で業務について徹底的にヒアリング。「システムを新しく買えばとかなんとかなると思っていたが、そうではなかった」といい、3カ月の間に改善の可能性のある三つの課の業務を洗い出した。

目に見えて改善できた一つは、勤怠管理を担う事務部の作業だ。エクセルのシフト表から120人分を1カ月分、勤怠管理ソフトに入力していたのを、ソフト表から自動的にソフトに抜き出せるように改良。8時間近くかかっていた作業は1時間に短縮した。「食事箋」という利用者一人一人に合わせたメニューを



左からNTT東日本の千原史也さん、小島一男さん、小島毅洋さんと興寿会の原さん、薄さん、坪内さん
横須賀市池上

管理する給食課も、個人情報が入力されているシステムから手作業による抜き書きなどで4種類の文書を作っていたが、直に元データから文書を作成できるように変更。計2時間ほどの業務は数十分に短縮された。

■つながり

三つ目は、ショートステイにかかわる利用者の予定や送迎車の運行を管理する生活支援課。時間切れで今後検証するというのが、こちらも丸1日以上かかっていた作業が、1

入力作業を大幅短縮

2時間に削減できると期待する。小島さんは2人とも、部門外でも一定のノウハウを持っており、周囲の社員にも聞きながら対応。「まずはできることを探し、とにかく喜んでもらったのがよかった」と口をそろえる。

一方、業務改善の検証を行う薄祐治副施設長(40)は「システムがあっても十分に使えていないことに気づかされた。課題抽出から解決へのやり方を知り、全体の意識改革にもつながったので、業務全体でもっと改善を進めたい。介護は人の手を大切にすべきもので、捻出した時間は利用者に戻元したい」と語る。

現場の負担軽減によって働く環境を改善すれば、離職者を減らす効果も見込める。

「今回の件で横のつながりができたので組織づくりに生かしたい。他の介護事業者と連携して(NTTに)来てもらえないかも考えたい。そうなれば費用負担が生してもシェアできるはず」と原茂良施設長(66)。「将来は障害者や医療の事業者と共通の地域でのプラットフォームをつくる流れになればと思う」と話していた。